

＜ 今日の説教のポイント ヨナ書3章 ＞

1 (1-4) 何がヨナを変えたのか — 神との出会いが生き方を変える！

3章の出だしを読むとほぼ同じ1章の出だしを思います。そして、目への状況は変わっていないのに、ヨナが前とは全く違う姿を示したことに驚かされます。その理由は言うまでもなく、ヨナが1～2章の経験を経て捉えたことから来ています。それは、「この世界を造って今も御手の中に置かれている神様抜きで生きて行くことはできないのだ」、ということです。それは一言でいうと神様に降参したということですし、その神様を神様として扱って来なかった自分の罪に気づいたことをも意味しています。その時、神様はヨナを陸地に戻し、やり直す道を与えられたのです(2:11)。ヨナは「神様がしなさいと言われたことをやるだけ」と思っていたことでしょう。これが変わった理由です。

2 (5-9) 予想外のニネベの人々の悔い改め — あり得る出来事！

ニネベの人々が悔い改めた — 普通では考えられないことです。しかし聖書がこう告げる時、「あり得ない」と考えて終えるのではなく、あり得る出来事と考えてこの話が持つ意味を思い巡らすことが大事です。私の父が信仰者になることは考えられませんでした。それは起こりました。なぜ起こったのか、私には分かりません。しかし、私はこれも「神様がそうしようと思われたならそれは成る」ということから考えることにしています。聖書の神様を信じて生きるようになってから、この希望(神に基づく希望)を持てるようになったことを喜んでいきます。「しかし希望が聞かれない時は？」と思う方もあるでしょう。その時は、私たちが抱いた以上の良きものをきつと神様は用意して下さっているのだと考えるのです(Iペトロ4:12以下 3に続く)。

3 (10) 最後の10節 — 新約聖書につながる憐れみに満ちた神。

新約聖書は神様が送って下さった御子イエスが人間たちに殺されてしまうことを告げています。しかし同時に、そのイエスを神様が復活させられるという、私たち人間には考えられない、死をも恐れなくなれる出来事をも告げているのです。それは10節の内容と一致します。つまり、神様は人間のどんな罪もそれに気づいたときに赦して下さる憐れみに満ちた神様です。神様は私たちがそれを信じて生きる者となることを待っておられるのです(IIペトロ3:9)。